

K-571

米沢市埋蔵文化財報告書第78集

上浅川C遺跡

上浅川C遺跡発掘調査報告書

平成14年3月

2002

米沢市教育委員会

上浅川C遺跡

上浅川C遺跡発掘調査報告書

平成14年3月

2002

米沢市教育委員会

序 文

本報告書は、平成12年度に実施した上浅川C遺跡発掘調査の結果をまとめたものです。

市道竹井浅川線の道路拡幅改良工事に伴う緊急発掘調査として実施したものであり、中世期に属する溝跡や土壙、塚のほかに縄文前期の遺物等が検出されています。

調査の対象となった浅川地区には、県内最多の終末期古墳が群集する戸塚山古墳群や古墳時代の大型方形周溝墓が検出された上浅川A遺跡、中世集落の拠点となる上浅川B遺跡など、戸塚山を中心に約30箇所の遺跡が密集した米沢市内では最大の遺跡の宝庫でもあります。

今回の調査は、道路敷部分の範囲に限定したことによって遺跡の全体を把握することはできませんでしたが、屋敷等の区画を示すと考えられる溝や墓壙等が確認され、中世期の集落の在り方を示しています。隣接する塚は庚申塚とみられ、庶民信仰の対象なったものです。

米沢市には、中世にかけての城館跡が多数存在しています。しかしながら、集落に関しては資料が少なく、ほとんど解明できないのが現状です。今後は、上浅川C遺跡も含め、謎の多い中世社会の解明に向けて、なお一層の調査や研究を進めて行く所存です。

最後になりましたが、今回の調査にあたり、格別のご指導を賜りました文化庁及び県教育庁社会教育課文化財保護室、そして多大なるご協力を賜りました地元の関係者と米沢市建設部土木課に対しまして、心から感謝を申し上げます。

平成14年3月

米沢市教育委員会

教育長 佐藤政一

例　　言

1. 本報告書は、市道竹井浅川線の道路拡幅改良工事に伴う緊急発掘調査として実施した発掘調査報告書である。
2. 調査は、米沢市建設部土木課と協議の上、米沢市教育委員会が主体となって平成12年9月1日から同年9月29日の期間で実施したものである。
3. 調査体制は次の通りである。
 - ・調査主体 米沢市教育委員会
 - ・調査総括 鈴木たみ子（文化課長）
 - ・調査担当 手塚 孝
 - ・調査主任 月山 隆弘
 - ・調査補助員 水科 友恵
 - ・調査作業員 伊藤 弘美 江袋 吉男 上村 修蔵 桑原あゆみ
色摩 三郎 高橋 宏夫 永井 庄田 吉田喜代志
 - ・事務局 小林 伸一・渡邊 純子
 - ・調査指導 文化庁・山形県教育庁文化財課
 - ・調査協力 米沢市建設部土木課
4. 掘図の縮尺は、遺物の実測図を1.5分の1を基本にした。遺構の平面図に関しては付図を80分の1と統一したが、細部遺構の平面図に関しては、縮尺率を概ね66分の1とし、それれにスケールを明記している。参考のために遺構分類計測表を表示した。写真図版に関しても縮尺不同としている。
5. 出土遺物は、米沢市埋蔵文化財資料室(米沢市万世町桑山269-3)に一括保管している。
6. 本書の作成は手塚が中心となり、次の者が担当した。
 - ・遺構平面図作成 渡部 明美・水科 友恵
 - ・遺物実測図作成 手塚 孝
 - ・写真撮影・図版作成 手塚 孝・高橋 正子
 - ・遺構等表作成 高橋 正子
 - ・本文執筆・編集 手塚 孝
 - ・責任校正 手塚 孝

本文目次

序文
例言
目次

1. 遺跡の概要	1
2. 調査の経過	1
3. 検出された遺構	4
(1) 土壙	4
(2) 柱穴状遺構	4
(3) 溝状遺構	4
· KY14	4
· KY18・KY19・KY20	4
· KY17	17
· KY13・KY16	17
· KY11・KY12・KY106	17
· KY10	17
(4) 塚	17
4. 検出された遺物	20
(1) 縄文時代の土器	20
(2) 石器	20
(3) 中世期の土器	20
5. まとめ	20
報告書抄録	21

挿図目次

第1図 上浅川C遺跡周辺の地形図	2
第2図 上浅川C遺跡グリット配置図	3
第3図 上浅川C遺跡遺構平面図(1)	5
第4図 上浅川C遺跡遺構平面図(2)	6
第5図 上浅川C遺跡遺構平面図(3)	7
第6図 上浅川C遺跡遺構平面図(4)	8
第7図 上浅川C遺跡遺構平面図(5)	9
第8図 上浅川C遺跡遺構平面図(6)	10
第9図 上浅川C遺跡遺構平面図(7)	11

第10図	上浅川C遺跡遺構平面図(8)	12
第11図	上浅川C遺跡遺構平面図(9)	13
第12図	上浅川C遺跡遺構平面図(10)	14
第13図	上浅川塚平面図	15・16
第14図	上浅川C遺跡出土遺物実測図	19

付 表 目 次

第1表	上浅川C遺跡遺構分類計測表	18
-----	---------------	----

図 版 目 次

第一図版	上浅川C遺跡の発掘（一） ▲調査区全景（空中写真）
第二図版	上浅川C遺跡の発掘（二） ▲遺構確認状況（南西より望む） ▲K Y10全景（西側より望む）
第三図版	上浅川C遺跡の発掘（三） ▲D Y 5～7掘り下げ状況（南側より望む） ▲D Y 5～7完掘状況（南側より望む）
第四図版	上浅川C遺跡の発掘（四） ▲東側柱穴群の状況（西側より望む） ▲北側溝状遺構の完掘状況（南西より望む）
第五図版	上浅川C遺跡の発掘（五） ▲塚の断面状況（南東より望む） ▲塚の発掘前状況（南東より望む）
第六図版	上浅川C遺跡出土の遺物（一）

1. 遺跡の概要

上浅川C遺跡は、戸塚山から北東に延びる稜線の末端の麓約200mの水田に位置する。標高356.6mの戸塚山には、全長54mの前方後円墳（139号墳）を筆頭に、7支群195基の古墳群が分布している。戸塚山古墳群は、4世紀代に構築された戸塚山北古墳（前方後方）を始め、5世紀中ごろから6世紀初頭までの首長墓が存在する山頂古墳群、6世紀代の円墳で構成する山崎古墳群、そして横穴式石室を有する7世紀～8世紀の終末期古墳は、南山腹から山麓にかけて群集しており、4世紀～8世紀と長期に亘って継続した特異な古墳群である。

また、戸塚山には、北側山麓を中心に鎌倉以降に構築されたと考えられている塚群が約300基、廃寺跡2箇所、三沢型山城の戸塚山館等といったように中世期の遺跡が広範囲に分布するのも特徴であり、山全体が一大聖地といつても過言でない。

戸塚山の影響は、周辺地帯にも関連集落として存在する。戸塚山の東には、縄文中期及び古墳時代～奈良時代にかけた複合集落の上浅川A遺跡があり、県内最大の方形周溝墓や古代の郷に関連する倉庫群が検出されている。一方、中世～近世の集落跡となる上浅川B遺跡と萩の森遺跡からは、中世初期～室町時代にかけての大規模な集落が確認されている。戸塚山の西側には、戸塚山古墳群に係る祭祀集落として注目されている上新田A遺跡など、戸塚山周辺だけでも約30箇所の遺跡が確認されている。

さて、上浅川C遺跡は、平成10年度から進められてきた「市道竹井浅川線」の道路拡幅改良工事に伴う試掘調査によって発見された遺跡であり、梓川の河岸段丘に沿った東西300m南北250mの範囲に分布している。一方上浅川塚は民家の入り口に存在するもので、以前から経塚ではないかといわれてきたものである。

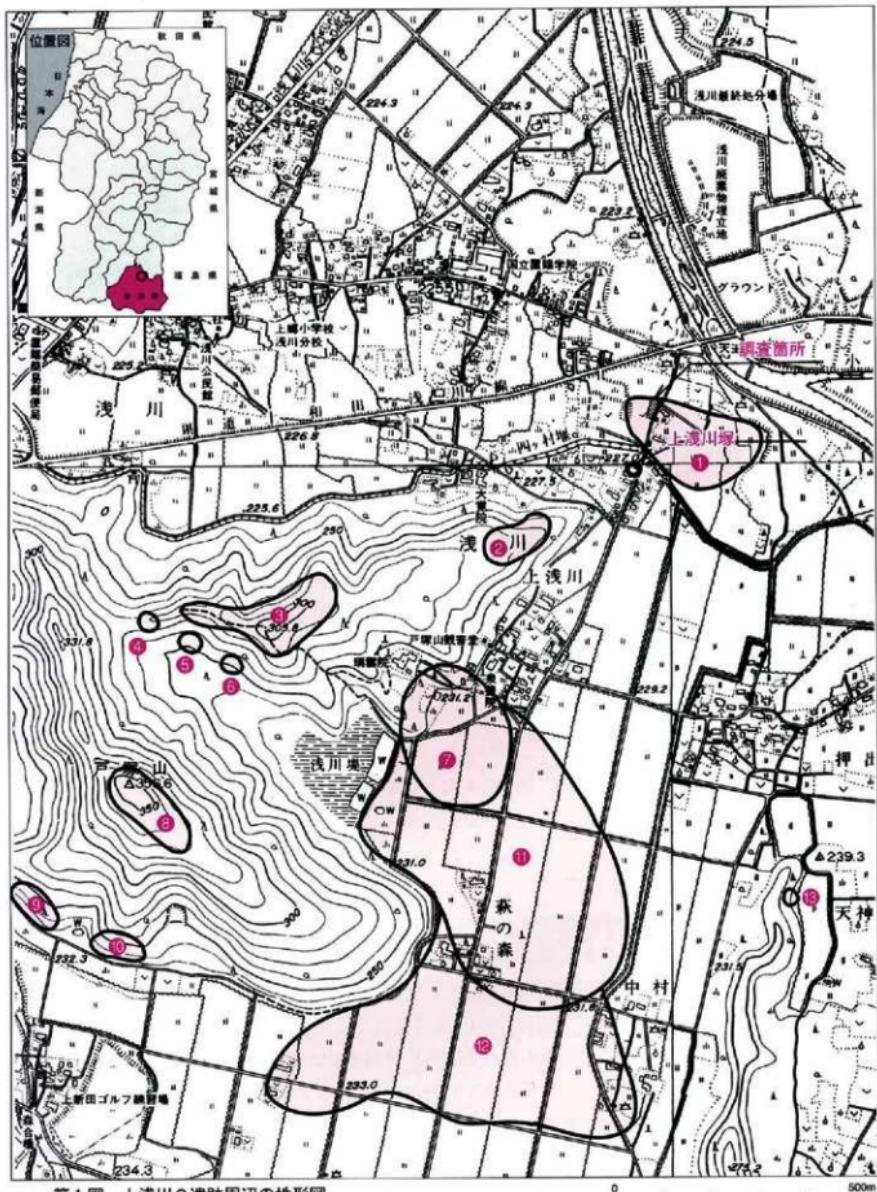
2. 調査の経過

9月1日から上浅川C遺跡の調査を開始する。試掘調査で遺構の分布が確認した河岸段丘の直上から南北40m×東西20mのグリッドを設定する。9月4日からは、重機による表土剥離を行い、並行して面整理と遺構確認の精査を進める。以前の開田の影響もあって、表土から遺構確認面までは20cm前後と浅く、精査と遺構確認を9月5日にはほぼ終了する。遺跡からは、中世と推測される溝跡を中心に小規模な柱穴が全体的に確認されており、遺構の切り合いを吟味しながら溝跡の掘り下げを6日から開始する。

18日からは、遺構の掘り下げと並行して上浅川塚の測量に入る。縮尺20分の1で10cmコンタを基本に進め、2日で終了した。20日からは、塚の性格を知るために十字状に基準杭を設定し、半裁することにした。慎重に掘り進めたが、遺物や内部施設が検出されないことから半裁段階で断面図及び写真撮影を行い塚の調査を終了した。

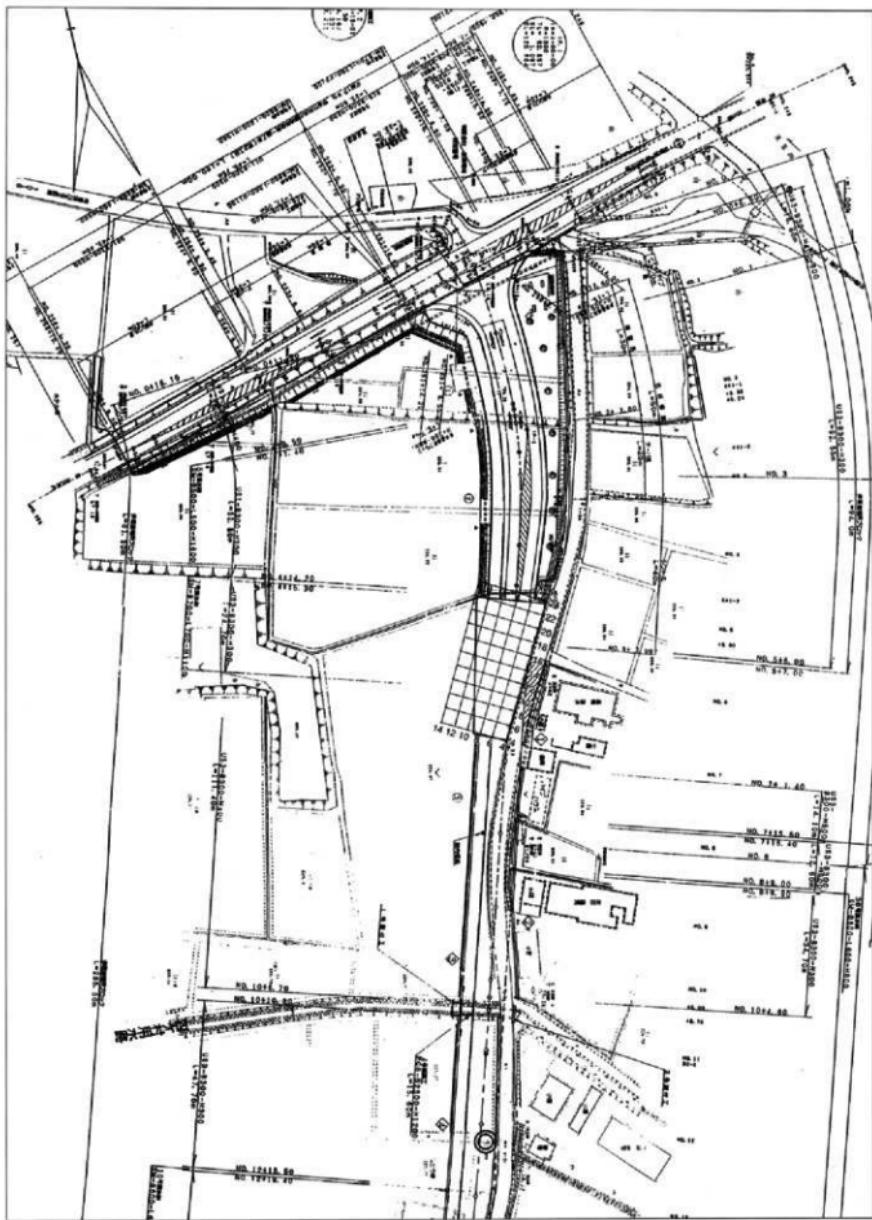
一方、上浅川C遺跡の遺構掘り下げは、遺物がほとんど出土しないことから順調に進み、柱穴の半裁も含め、9月25日ではほぼ終了した。

9月26日からは、各遺構の断面図及び平面図作成に移る。28日に写真撮影とレベルの表記を行い9月29日で全ての工程を終了する。最終的な調査面積は、558m²であった。



第1図 上浅川C遺跡周辺の地形図

- ①上浅川C遺跡 ②山崎古墳群 ③戸塚山古墳跡 ④戸塚山北古墳 ⑤堤入a古墳群
 ⑥堤入a古墳群 ⑦上浅川A遺跡 ⑧山頂古墳群 ⑨森合西古墳群 ⑩森合東古墳群
 ⑪森合の森遺跡 ⑫天神裏古墳



第2図 上浅川C遺跡グリット配置図

3. 検出された遺構

調査区の全体に亘って認められるもので、柱穴状を有する小ピット82基、溝状遺構12基、土壙12基の計106基が検出されている。これらの遺構には、遺物がほとんど含まれていないのが大半であり、時期の判別が困難である。ここでは、検出された遺構の概要について述べる。

(1) 土 壙 「第3図～第5図」

調査区の北側を中心に斜めに並ぶように検出されている。平面形状から分類すると3形態に分けることが可能であった。最初の円形を示すグループとしては、長径1.4m前後、深さ13cm～41cmを測るもので、底面が平坦もしくはボール状を示している。この仲間には、DY1・DY2・DY4・DY22・DY26の5基が存在する。この中でDY1・DY4の覆土内から縄文後期の土器片が出土している。何れも小破片であることから、後世の構築の際に混入した可能性もあるが、埋土の状況から縄文時代の遺構とみている。

次の方形状の掘り方を示すグループとして、DY5とDY7の2基がある。確認面からの深さが60cm～70cmと比較的深く、覆土も泥炭質で軟らかいことから、中世期ころと推測されるが確証はない。遺物は確認されなかった。

最後の梢円形及び長方形の形状をもつグループとして、DY3・DY6・DY8・DY9・DY70の5基が認められる。全長約2m～3m、幅1m～1.8m、深さ25cm前後と浅いのが特徴で、覆土は1もしくは2枚をなす。この中で、DY9の上部より赤焼土器の壊1点が検出されている。この仲間の大半は中世に属する遺構と思われ、墓壙の可能性を考えている。

(2) 柱穴状遺構 「第5図～第9図」

調査区の南北両端に集中して認められる。断面の形状からTY91やTY95といった底部が尖状を示すものと極端に浅い皿状を示すTY81やTY84など、TY45やTY46のように40cm前後と深く掘り込んでいるものなど様々である。最初の尖状を有するものは打ち込み杭、最後の深いグループは何らかの柱等を設置した柱穴と考えられる。

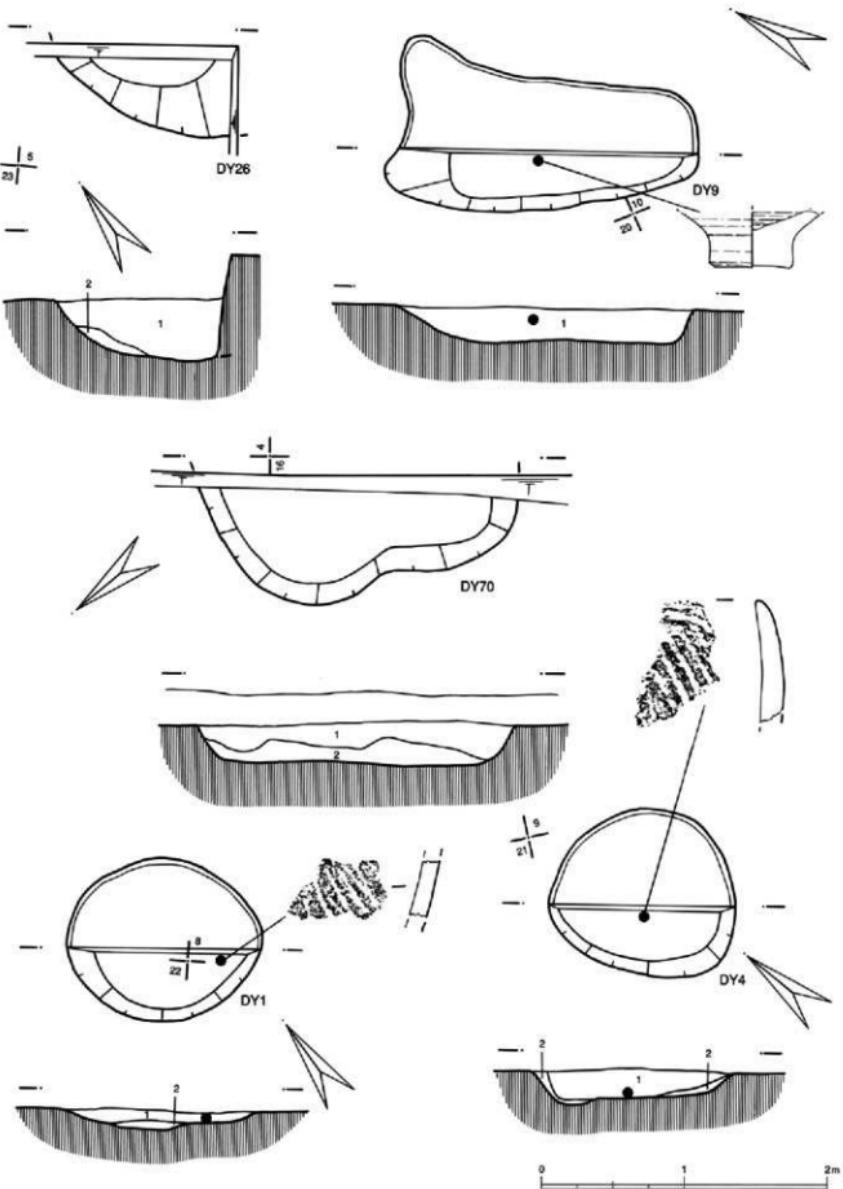
特に、南側の東壁に等間隔に検出されたTY78～81・83～85・87・TY101の9本は横列もしくは、建物跡の一部とみられる。

(3) 溝状遺構 「第10図～第12図」

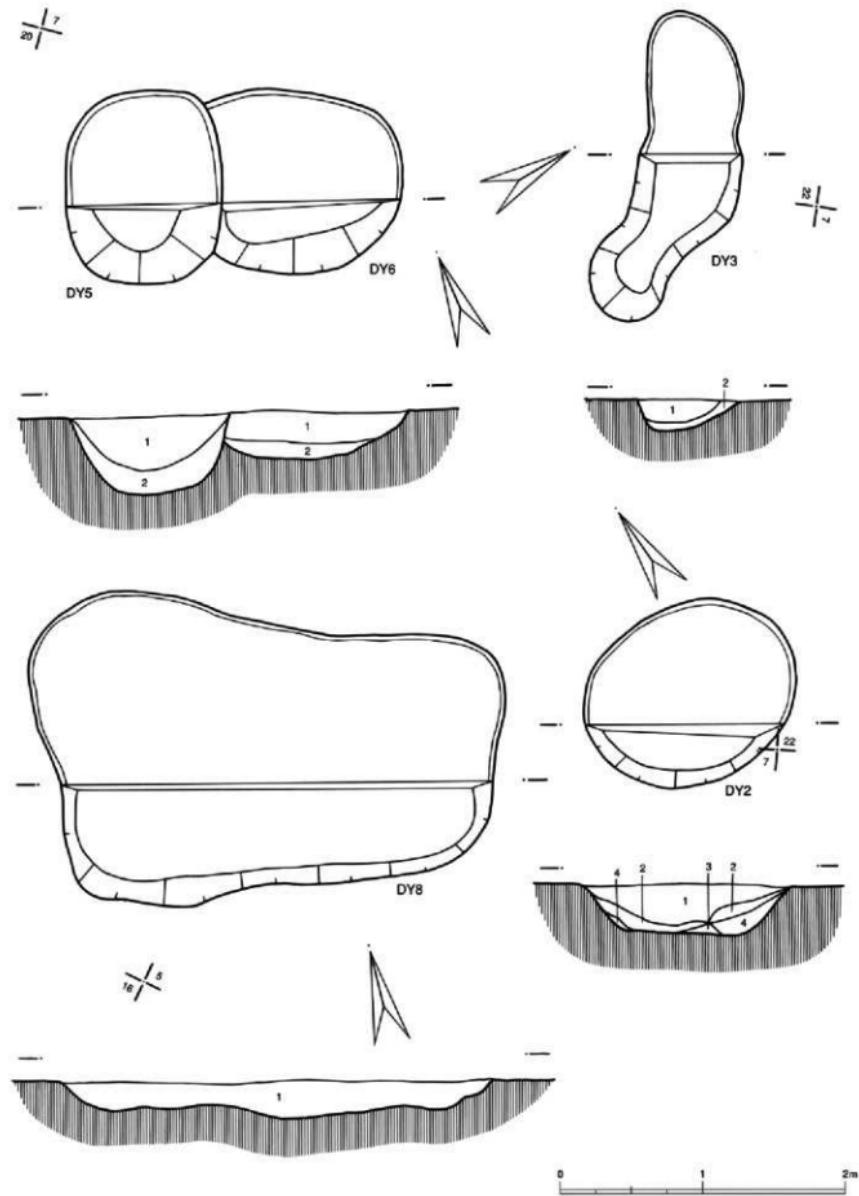
中央を横断する溝状遺構を中心に、南側と北側に分かれるように沿って分布している。何れも中世から近世頃の遺構と推測されるが、遺物は検出されなかった。代表的な遺構についてその概要を述べることにする。

・ KY14 「第12図」

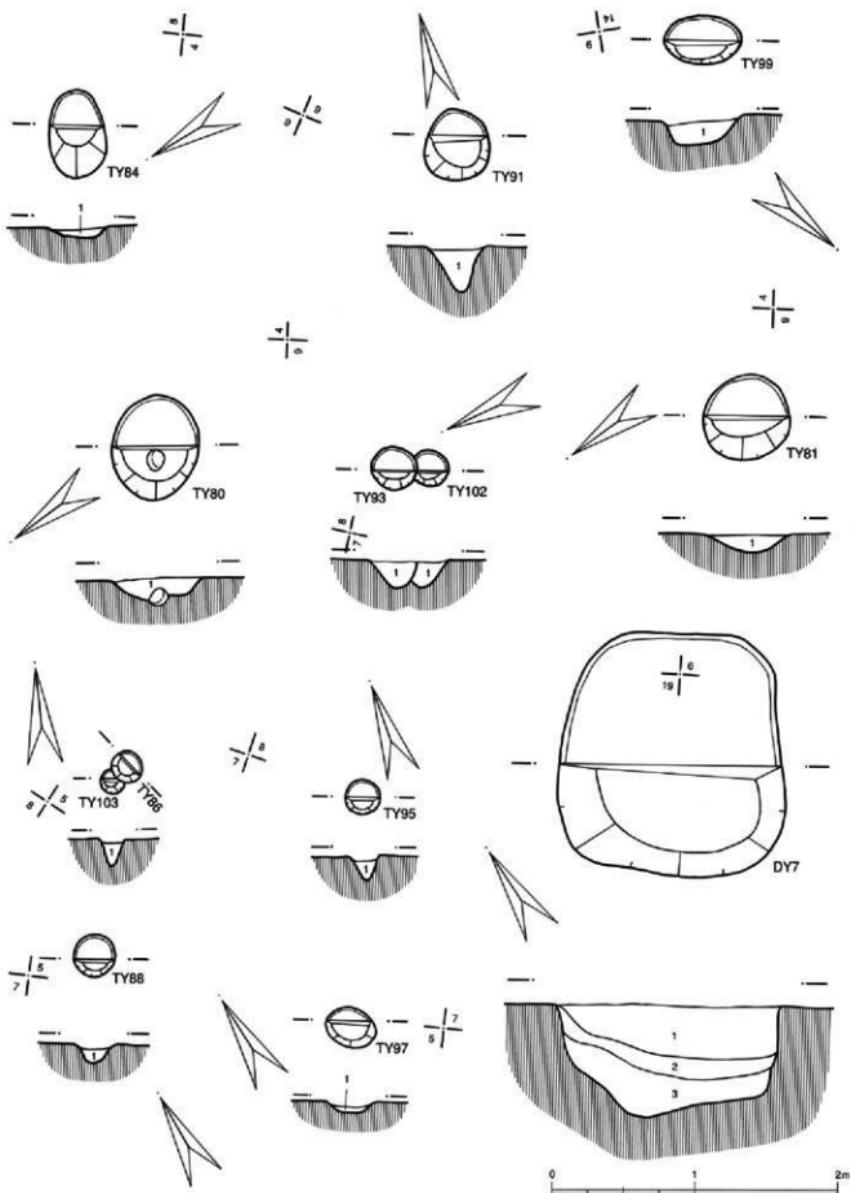
ほぼ南北に走る溝跡で、北西壁から延びるKY15の溝跡と南西側のKY17が接続している。確認される現長は約17m、中心の最大幅が2m、北側で1.3m、深さ53cmを測る。覆土は2～3枚で泥炭質を呈しており、水が流れていたものと想定される。接続するKY15は、切合い関係が認められないことから同時に機能していたものとみられる。溝の中心部分からは、第14図の6（かわらけ）1点が出土しているが後世の時期に流れ込んだ可能性がある。北側の壁に打ち込み杭の痕跡が認められることから近世頃の水田用の水路と考えたい。



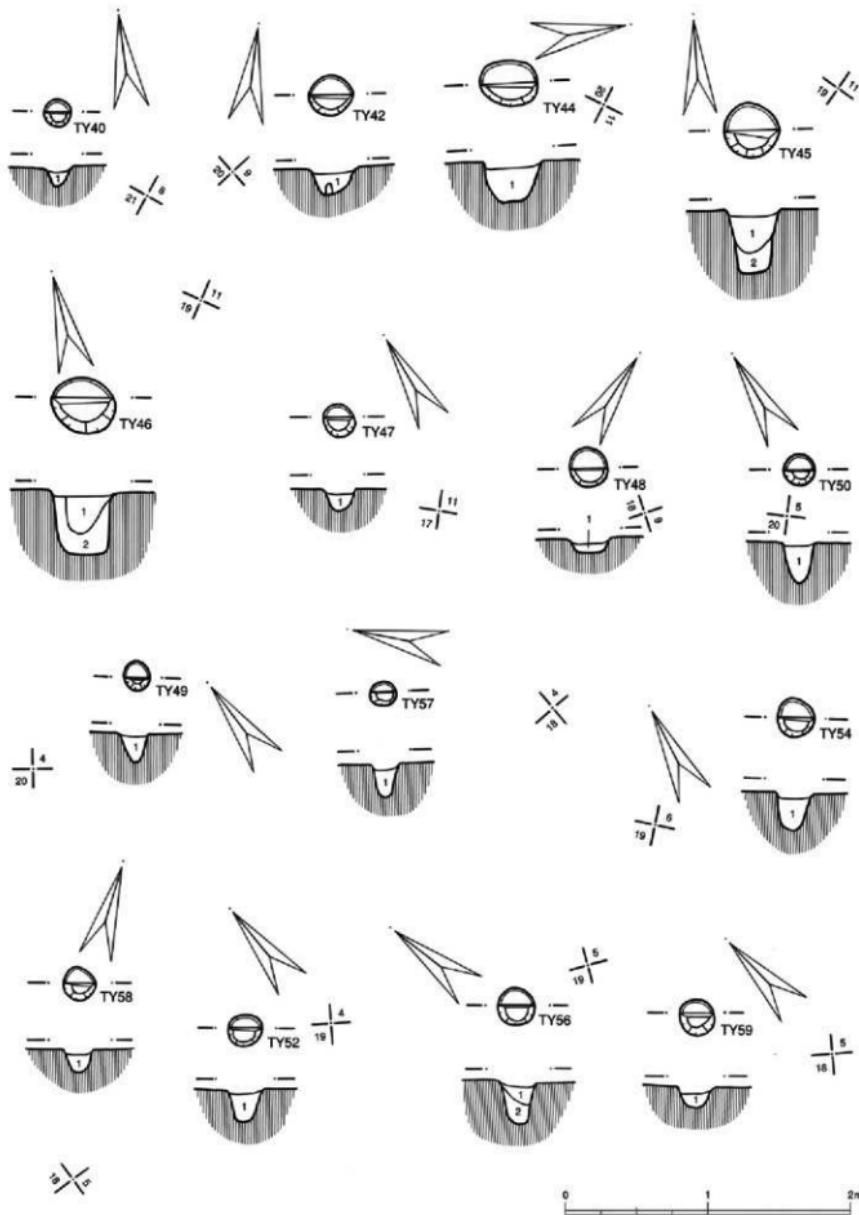
第3図 上浅川C遺跡遺構平面図（1）



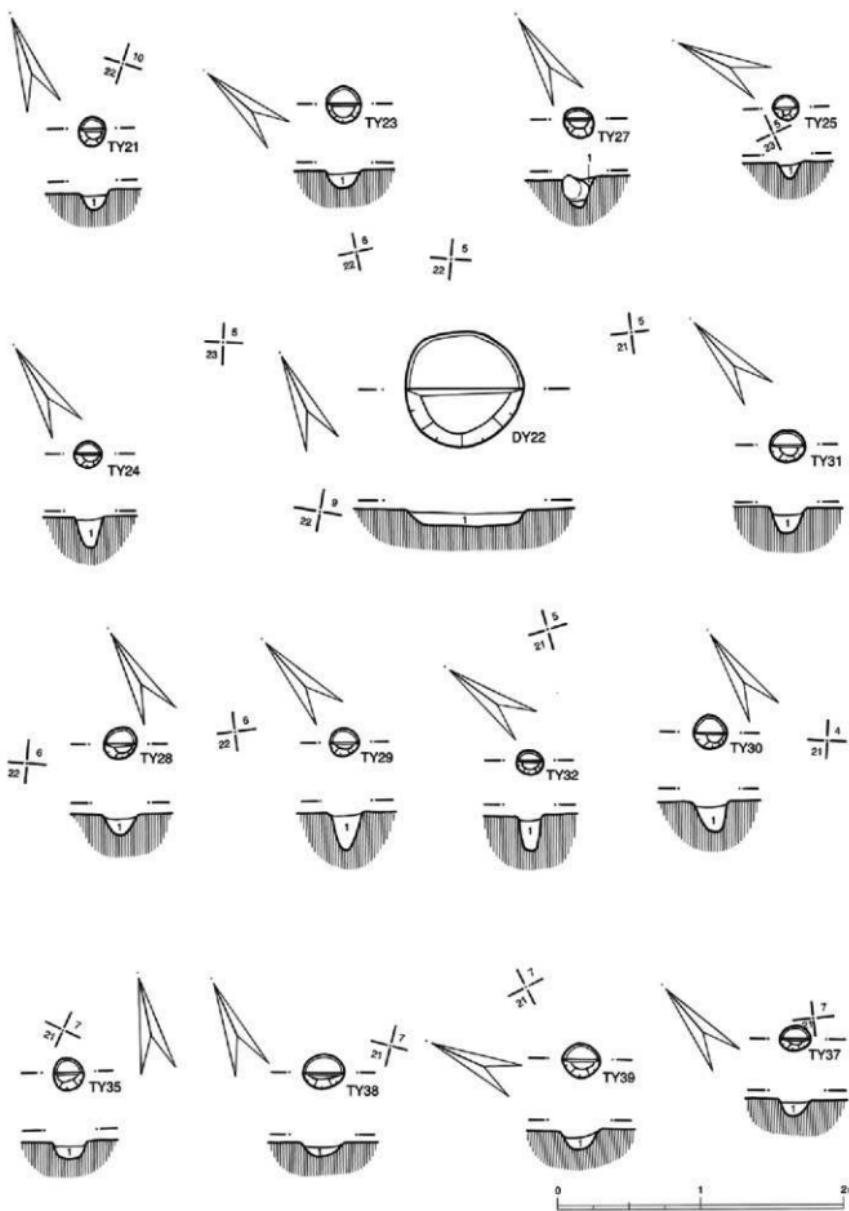
第4図 上浅川C遺跡遺構平面図（2）



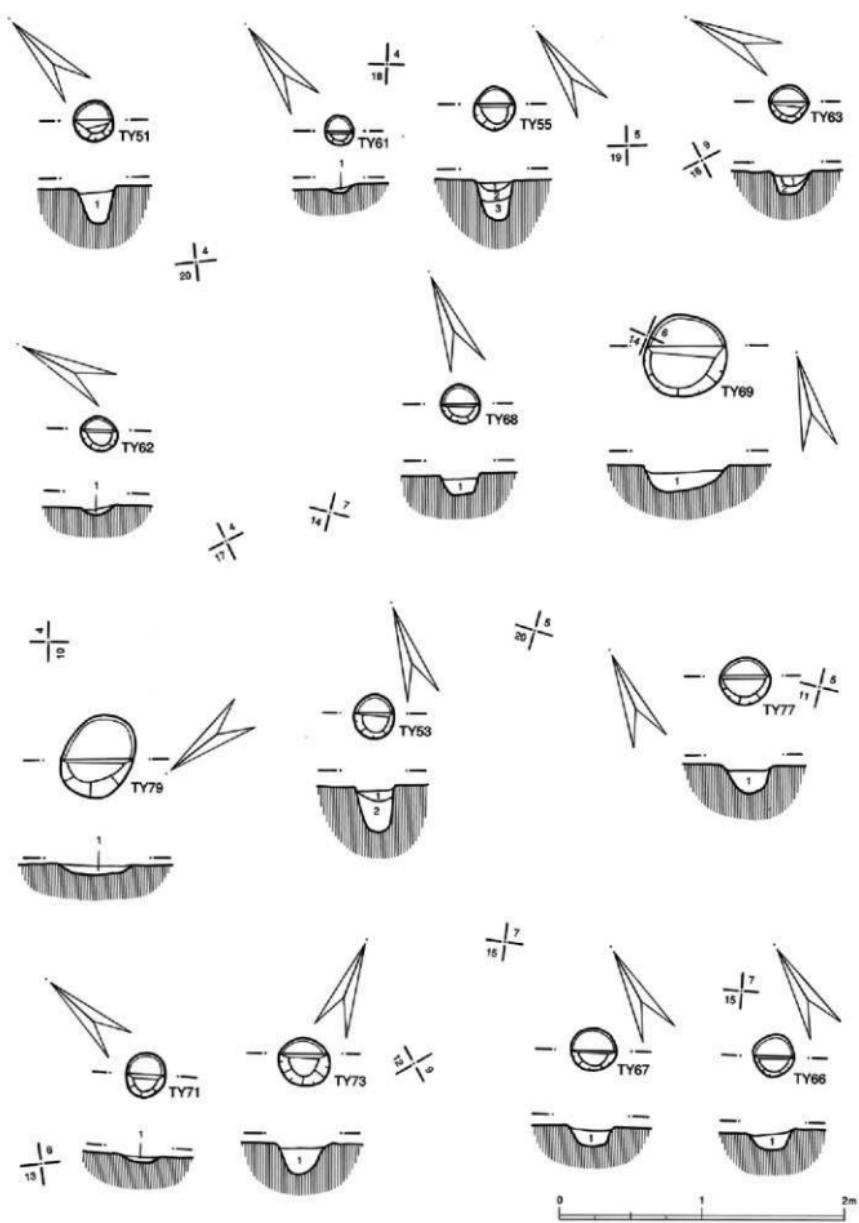
第5図 上浅川C遺跡遺構平面図（3）



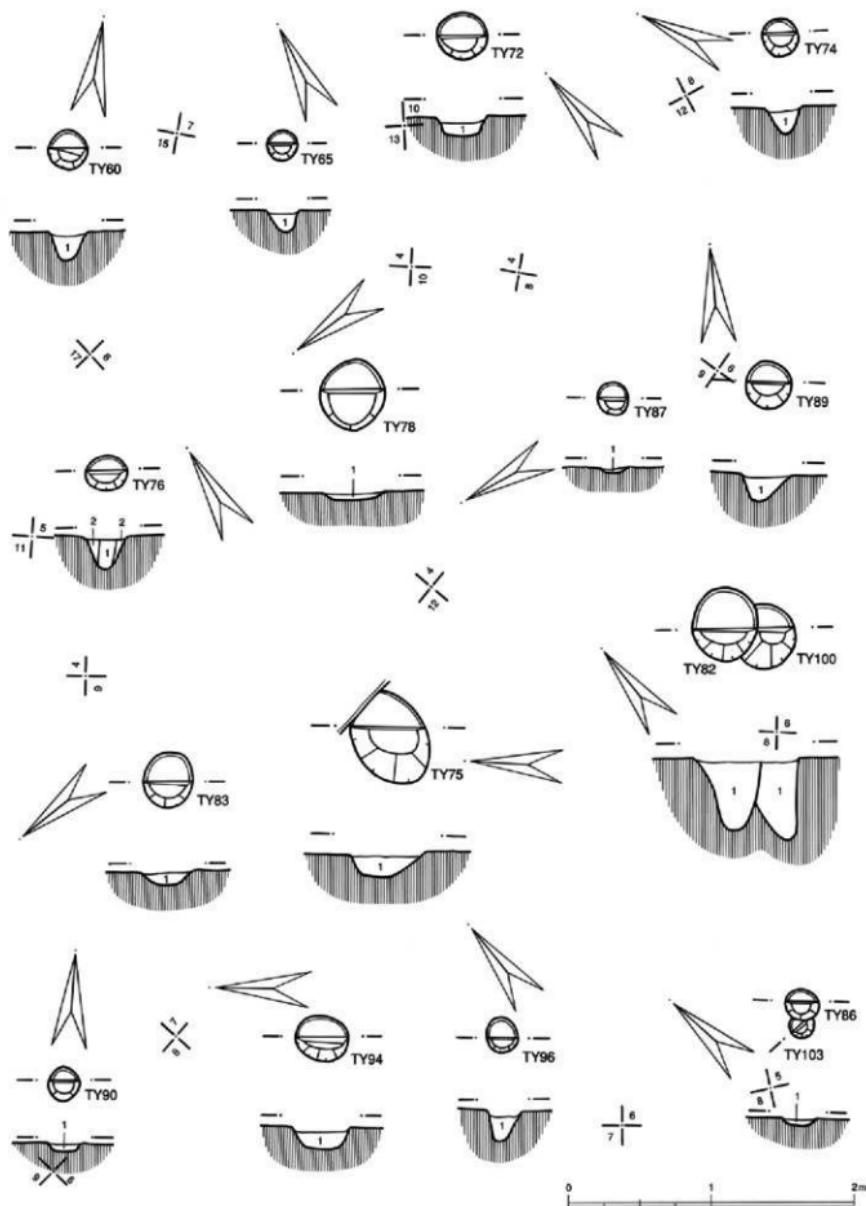
第6図 上浅川C遺跡遺構平面図(4)



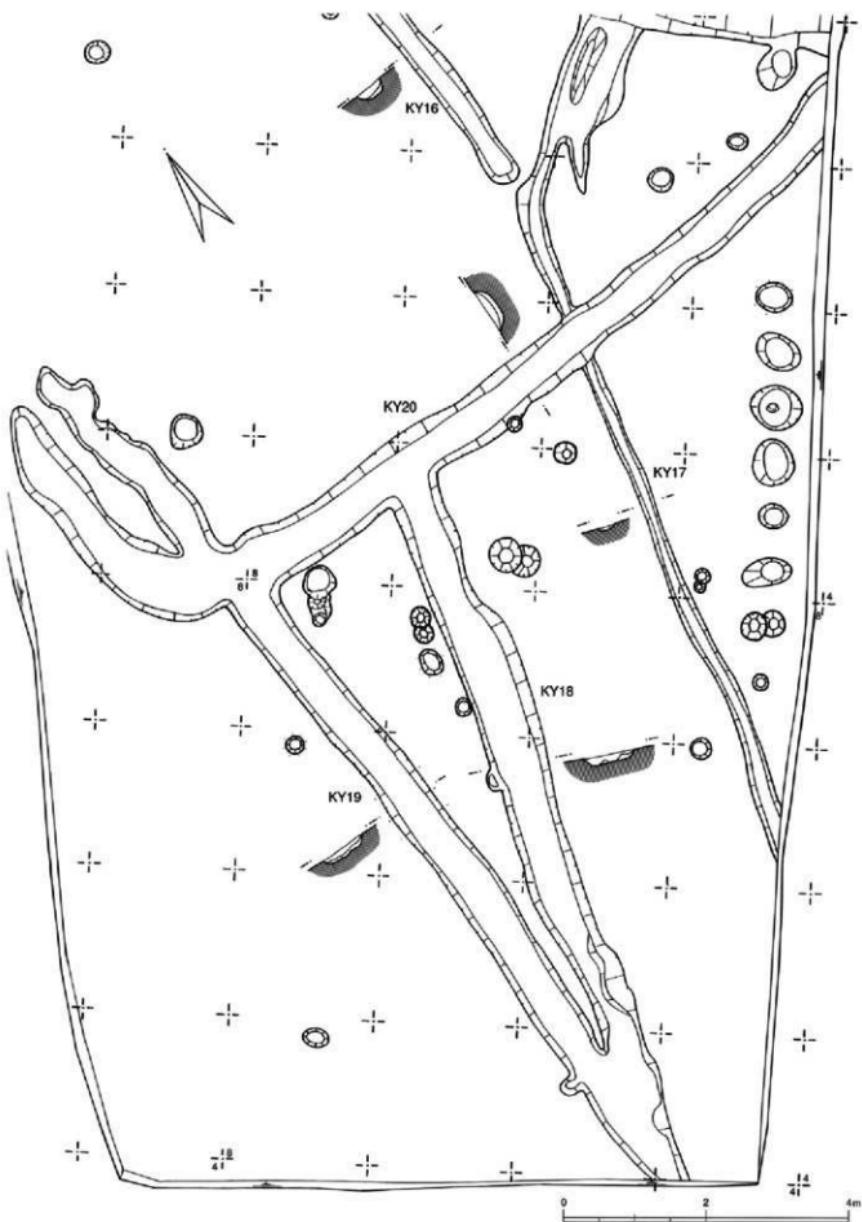
第7図 上浅川C遺跡遺構平面図(5)



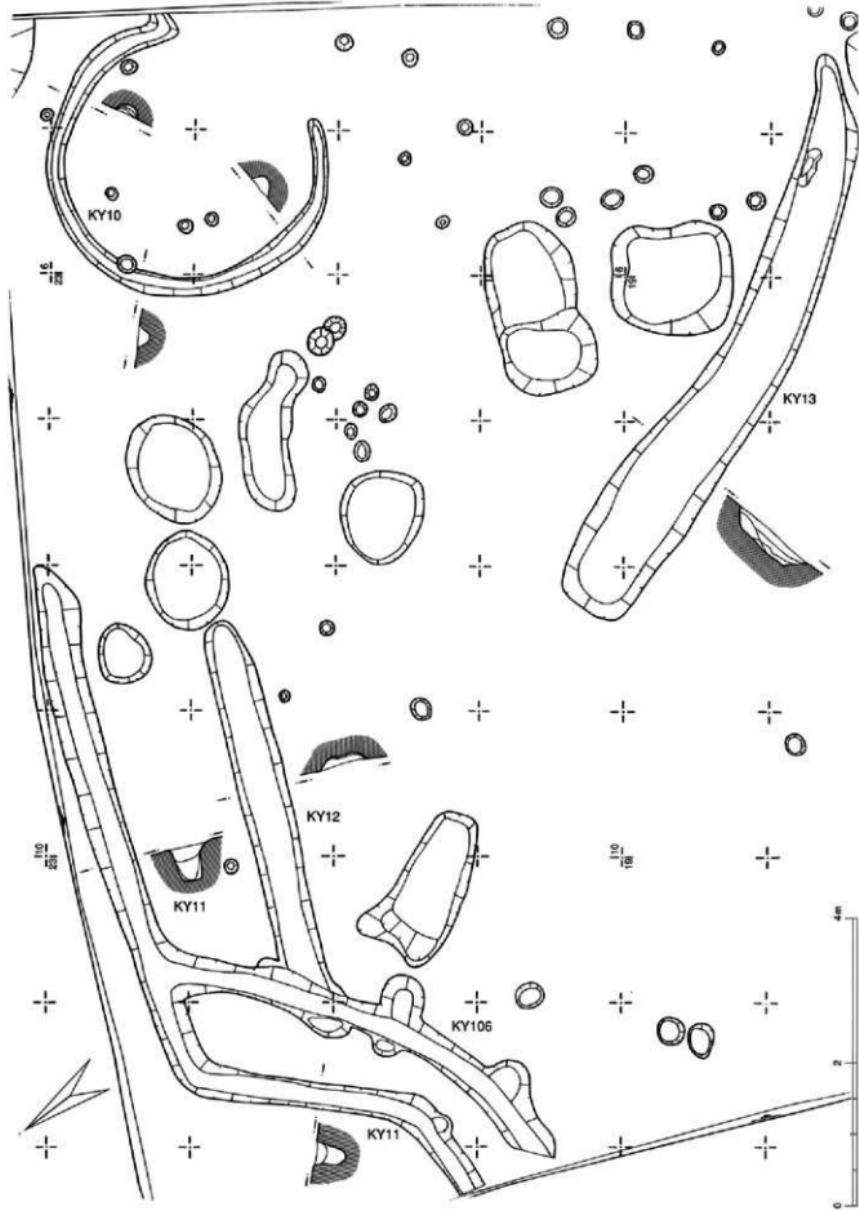
第8図 上浅川C遺跡遺構平面図 (6)



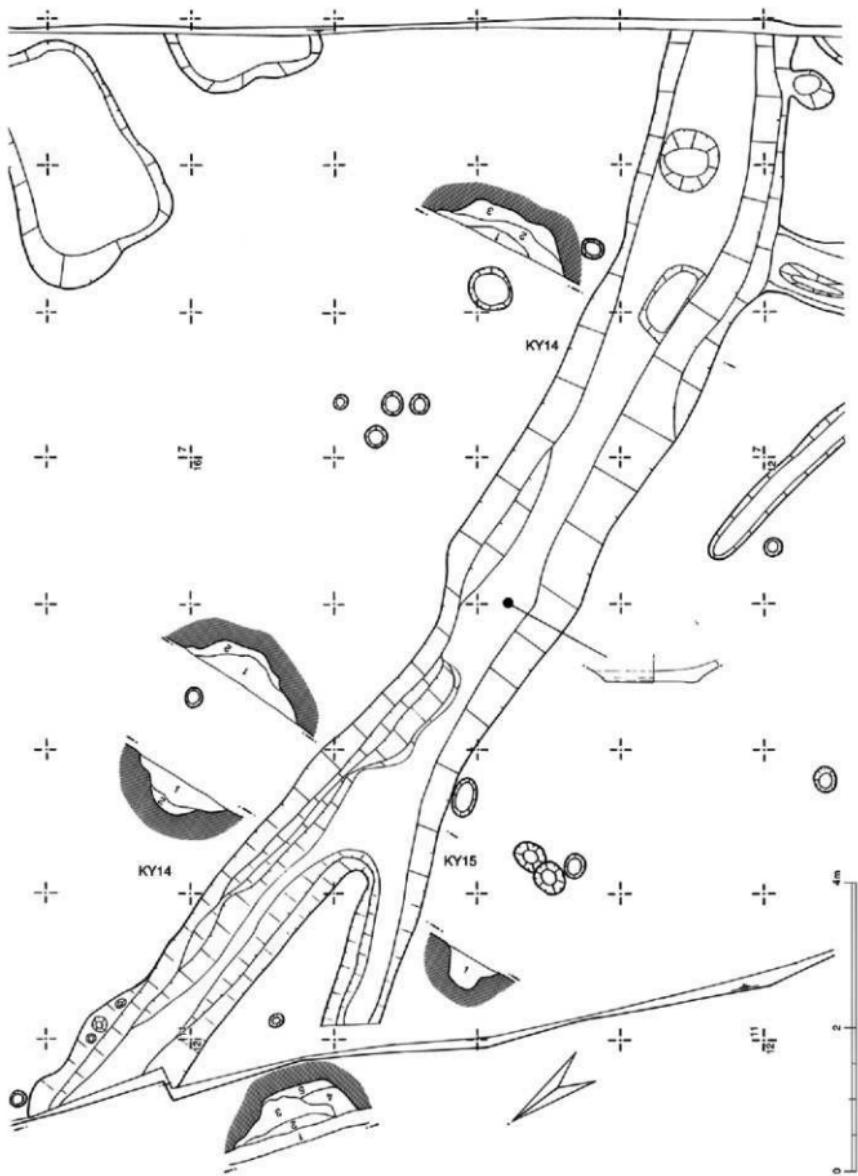
第9図 上浅川C遺跡遺構平面図(7)



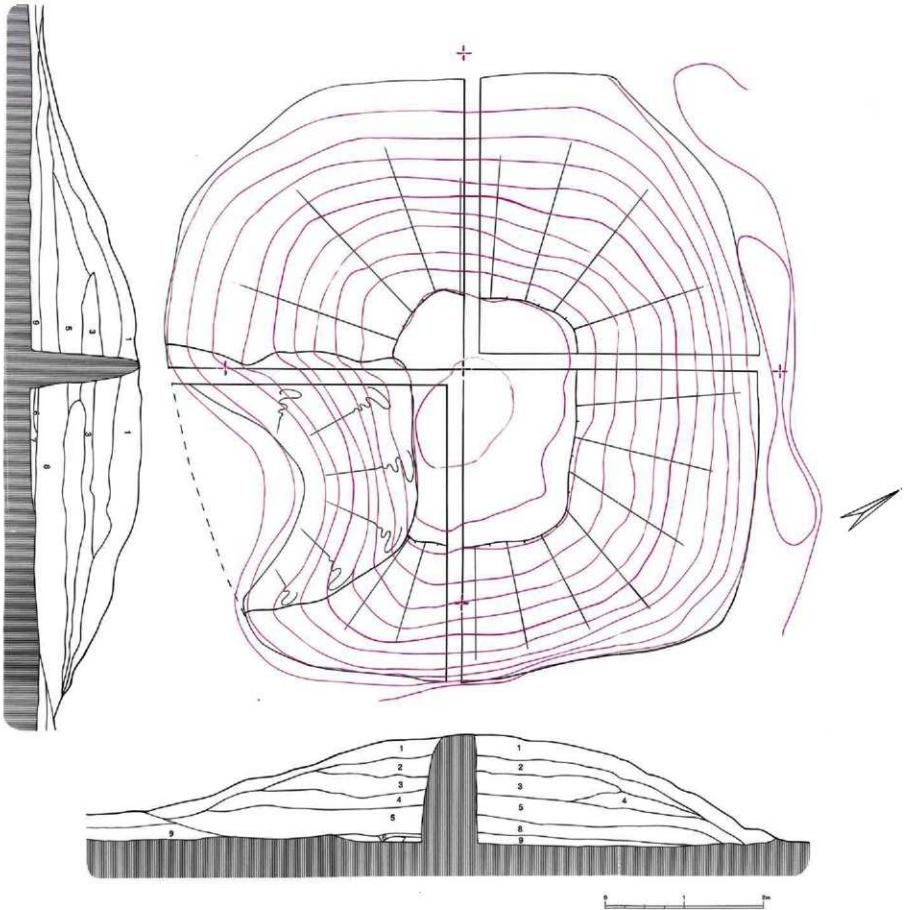
第10図 上浅川C遺跡遺構平面図（8）



第11図 上浅川C遺跡遺構平面図（9）



第12図 上浅川C遺跡遺構平面図（10）



第13図 上浅川塚平面図

・ KY18～KY20「第10図」

幅52cm～75cm、深さ8cm～12cmと何れも極端に浅い溝状の遺構であり、全長15.3mをなす東西長のKY20は、西端で北側に折れる。全長14.5mを測る南北長のKY19は、北西側でKY20と交差するように存在する。同じく南北長のKY18、KY19とKY20に接続するものであり、全長12mを示している。これらの溝は、切合関係の吟味から想定すれば、KY20が当初に築かれて北側の区画もしくは溝として機能していたが、KY19を設けることによって南側の区画を設定していた。やがてKY20はKY19と接続し、南側の区画として機能したが最終的には西側にKY18を補助的に設けたものと推測される。建物跡や屋敷の区画の可能性も予測されるが、明確にできなかった。

・ KY17「第10図」

KY20を切って構築するもので、南側から北に向かいKY14に接続する直前でやや東側に弧を描いている。確認された全長は14.5mをなし、深さ11cm、幅も30cm前後と狭い。南側から北に傾いていることより、排水施設と考えられる。

・ KY13・KY16「第10図～第12図」

KY16は全長4m、幅30cm、深さ18cmの直線状。KY13は全長8.6m、幅50cm～115cm、深さ11cm～18cmのやや東側に弧をなす溝跡で、南から北に窄まるような形態を示している。

・ KY11・KY12・KY106「第11図」

東西からクランク状をなすKY11と、KY11から分かれて西側に向かうKY106、それにKY106の一部を切ってKY11と並行するように存在するKY12がある。KY11とKY106は同時に築かれ、後にKY12が掘られたものとみられる。排水溝の一部とみる。

・ KY10「第11図」

調査区の北東隅より検出されたもので、幅20cm～30cmの円形に巡る溝が南側で開口するのを特徴としている。深さ14cm前後を測る溝は、円の内縁部で直径3.3mをなす。この段階では、単なる溝か、塚に伴う周溝かの判断は困難である。

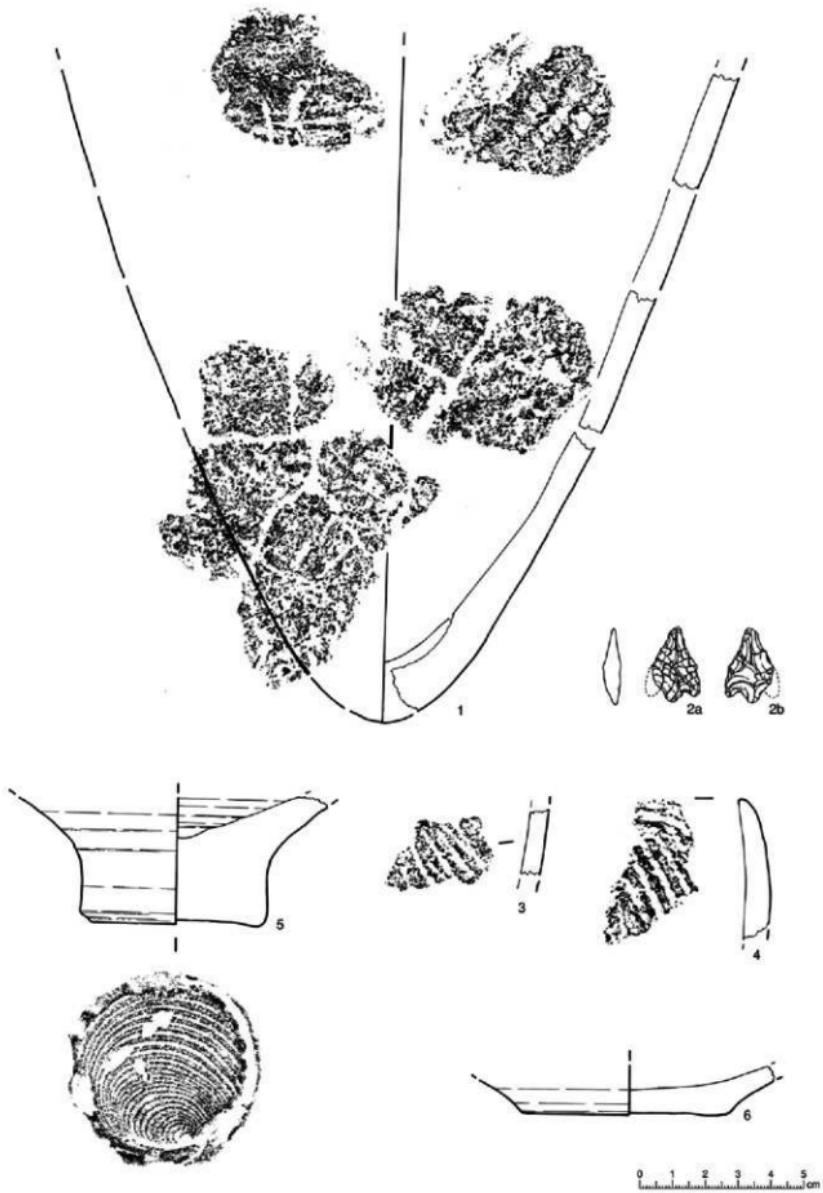
(4) 塚「第13図」

塚の南東部は土砂の採取によって削平しているが、東西7.3m、南北7.1mのはば正方形の形状をなす。上部は平坦で、東西3m、南北2.4mをなすが削平を考えれば3m四方を元は示していたものと推測される。表土からの高さは約1mで、周溝は認められない。層位は、基本的に9枚に分かれる。No.1は表土でシルト質の黒土層である。塚の状況から判断すると最終的な化粧土として用いた可能性がある。No.2～No.7は版築層となり、No.2の茶褐色シルトを中心とした土層。No.3は黄褐色シルトと粘土を混合したもの。No.4は茶褐色シルトに黄褐色粘土を若干混ぜたもの。No.5は黒土に茶褐色シルトを混合したもの。No.6とNo.7は塚の中央にレンズ状に認められるもので、炭化物を多量に含む。整地段階で祭祀を行った痕跡と考えられる。

No.8は茶褐色シルトで塚の構築段階で整地した土層。No.9は旧表土と推測される。塚の上部には、年記不明の庚申塔と馬頭観音を刻んだ2基の石塔が設置しており、個人もしくは村单位で建立した「庚申塚」等の庶民信仰に係わる塚としておきたい。時期は近世初期とみられる。

第1表 上浅川C遺跡遺構分類計測表

柱穴No	出 土 地 区	形 状	長 径	短 径	深 度	博 团 直
DY 1	G 9 - 22 - 23	椭円形	138	112	14	3 圓
DY 2	G 8 - 22 - 23	椭円形	146	130	32	4 圓
DY 3	G 7 - 8 - 22	不整椭円形	216	70	25	4 圓
DY 4	G 8 - 21	椭円形	125	114	27	3 圓
DY 5	G 7 - 20	椭円形	130	98	62	4 圓
DY 6	G 6 - 7 - 20	椭円形	137	124	38	4 圓
DY 7	G 6 - 7 - 19 - 20	椭円形	162	144	76	5 圓
DY 8	G 5 - 6 - 17 - 18	椭円形	311	180	25	4 圓
DY 9	G 9 - 10 - 21	不整椭円形	250	92	21	3 圓
KY10	G 5 - 7 - 22 - 24	環 状	(755)	24	8	11 圓
KY11	G 8 - 13 - 21 - 24	直 線	(910)	54	50	11 圓
KY12	G 9 - 12 - 21 - 22	直 線	596	68	13	11 圓
KY13	G 5 - 9 - 18 - 20	直 線	860	123	14	11 圓
KY14	G 4 - 12 - 12 - 18	直 線	(1710)	132	53	12 圓
KY15	G 10 - 11 - 15 - 16	直 線	206	80	43	12 圓
KY16	G 7 - 8 - 11	直 線	415	32	18	10 圓
KY17	G 5 - 7 - 7 - 12	L 字	(1240)	25	7	10 圓
KY18	G 5 - 7 - 5 - 9	直 線	(1200)	66	11	10 圓
KY19	G 5 - 10 - 5 - 10	直 線	(1450)	64	11	10 圓
KY20	G 5 - 10 - 8 - 12	L 字	(1530)	72	8	10 圓
TY21	G 10 - 11 - 22	円 形	18	17	13	7 圓
DY22	G 9 - 23	椭円形	82	67	13	7 圓
TY23	G 6 - 23	円 形	26	24	12	7 圓
TY24	G 6 - 23	円 形	19	16	27	7 圓
TY25	G 5 - 24	椭円形	17	15	19	7 圓
DY26	G 5 - 24	不 明	124	50	41	3 圓
TY27	G 5 - 23	椭円形	21	19	29	7 圓
TY28	G 6 - 23	椭円形	22	20	13	7 圓
TY29	G 6 - 22	円 形	19	18	26	7 圓
TY30	G 5 - 21 - 22	椭円形	25	22	11	7 圓
TY31	G 5 - 21	円 形	24	20	18	7 圓
TY32	G 6 - 21	椭円形	17	16	24	7 圓
TY33	G 7 - 22	円 形	35	34	33	—
TY34	G 7 - 22	円 形	20	18	21	—
TY35	G 7 - 21	椭円形	21	20	15	7 圓
TY36	G 7 - 21	椭円形	23	16	7	—
TY37	G 8 - 21	椭円形	24	16	11	7 圓
TY38	G 8 - 21	椭円形	28	21	28	7 圓
TY39	G 7 - 21	椭円形	26	21	18	7 圓
TY40	G 9 - 22	円 形	18	17	26	6 圓
TY41	G 9 - 22	円 形	14	13	12	—
TY42	G 9 - 10 - 21	椭円形	32	25	18	6 圓
TY43	G 12 - 21	不整椭円形	18	15	35	—
TY44	G 11 - 20	椭円形	38	30	39	6 圓
TY45	G 12 - 19	円 形	36	35	38	6 圓
TY46	G 12 - 19	椭円形	43	33	39	6 圓
TY47	G 12 - 18	椭円形	23	20	14	6 圓
TY48	G 10 - 18	円 形	27	27	8	6 圓
TY49	G 6 - 21	椭円形	21	17	19	6 圓
TY50	G 5 - 6 - 21	円 形	20	20	30	6 圓
TY51	G 5 - 20	円 形	26	26	25	8 圓
TY52	G 5 - 19 - 20	円 形	20	18	24	6 圓
TY53	G 6 - 20	椭円形	31	27	37	8 圓
柱穴No	出 土 地 区	形 状	長 径	短 径	深 度	博 团 直
TY54	G 6 - 20	椭円形	26	25	19	6 圓
TY55	G 6 - 20	椭円形	32	27	23	8 圓
TY56	G 6 - 19	円 形	25	25	21	6 圓
TY57	G 5 - 19	椭円形	18	15	23	6 圓
TY58	G 6 - 19	円 形	20	20	20	6 圓
TY59	G 6 - 19	円 形	23	23	20	6 圓
TY60	G 7 - 18	円 形	26	25	19	9 圓
TY61	G 5 - 18	円 形	19	17	6	8 圓
TY62	G 5 - 18	円 形	23	23	13	8 圓
TY63	G 9 - 16 - 17	円 形	28	25	14	8 圓
TY64	G 11 - 16	椭円形	23	15	4	—
TY65	G 7 - 15 - 16	円 形	19	18	13	9 圓
TY66	G 7 - 15	円 形	30	27	13	8 圓
TY67	G 7 - 15	円 形	32	26	12	8 圓
TY68	G 7 - 15	円 形	26	25	13	8 圓
TY69	G 6 - 14 - 15	椭円形	56	53	16	8 圓
TY70	G 5 - 16 - 17	不 明	220	62	27	3 圓
TY71	G 6 - 14	椭円形	30	23	3	8 圓
TY72	G 10 - 14	椭円形	34	30	12	9 圓
TY73	G 10 - 12	円 形	34	33	38	8 圓
TY74	G 8 - 9 - 12 - 13	円 形	25	25	18	9 圓
TY75	G 5 - 12	椭円形	65	48	16	9 圓
TY76	G 5 - 12	椭円形	28	20	21	9 圓
TY77	G 6 - 11 - 12	円 形	35	32	18	8 圓
TY78	G 5 - 11	椭円形	50	42	5	9 圓
TY79	G 5 - 10	椭円形	65	46	5	8 圓
TY80	G 5 - 10	円 形	70	60	15	5 圓
TY81	G 5 - 9 - 10	椭円形	63	56	13	5 圓
TY82	G 7 - 9	円 形	50	45	52	9 圓
TY83	G 5 - 9	椭円形	42	33	9	9 圓
TY84	G 5 - 9	椭円形	66	34	5	5 圓
TY85	G 85 - 8 - 9	円 形	35	35	5	—
TY86	G 5 - 9	円 形	21	20	3	9 圓
TY87	G 5 - 8	円 形	20	19	3	9 圓
TY88	G 5 - 8	円 形	30	28	13	5 圓
TY89	G 6 - 10	円 形	30	30	22	9 圓
TY90	G 7 - 10	円 形	25	19	8	9 圓
TY91	G 9 - 9 - 10	不整椭円形	47	40	44	5 圓
TY92	G 8 - 9	不整椭円形	50	47	21	—
TY93	G 7 - 8	椭円形	30	26	17	5 圓
TY94	G 7 - 8	椭円形	36	29	9	9 圓
TY95	G 8 - 7	円 形	24	23	14	5 圓
TY96	G 7 - 8	椭円形	23	20	26	9 圓
TY97	G 8 - 5 - 6	椭円形	34	25	8	5 圓
TY98	G 10 - 14	椭円形	37	37	14	—
TY99	G 10 - 14	椭円形	56	30	22	5 圓
TY100	G 6 - 7 - 9	円 形	46	26	52	9 圓
TY101	G 5 - 8 - 9	円 形	33	24	5	—
TY102	G 7 - 8	椭円形	21	20	17	5 圓
TY103	G 5 - 9	円 形	16	12	19	5 圓
TY104	G 10 - 14	椭円形	50	45	13	—
TY105	G 7 - 22	円 形	27	22	33	—
TY106	G 11 - 12 - 20 - 23	直 線	(600)	45	32	11 圓



第14図 上浅川C遺跡出土遺物実測図

4. 検出された遺物

今回の調査で検出された遺物は、中世に係わる赤焼土器 2 点と縄文時代の土器片22点、石鎌 1 点の僅か25点であった。

(1) 縄文時代の土器「第13図 1・3・4」

縄文前期初頭の土器片20点と縄文後期の土器片 2 点がある。前者は、胎土に多量の石英砂と纖維を含むもので、磨滅が著しい。表面は太状の原体を用いた4本多条の斜縄文を展開し、内面の上部付近に条痕文を施している。器形は尖底を有する深鉢形土器とみられる。条痕縄文は一般に早期末頃に位置付けられているが、縄文の筋が太状を示す特徴から前期初頭の範疇に加えておきたい。次の後期の土器は、4が内傾する鉢形土器の口縁部片で、地文に撚糸文を施している。3は付加縄文を有した鉢型土器の胴部片となる。

(2) 石鎌「第13図 2」

基部の片側が失われてた両面加工の石鎌である。基部の左右に2箇所の抉りを有するのが特徴から未発達の有軸石鎌と考えられる。縄文後期に伴うものとみられる。

(3) 中世期の土器「第13図 5・6」

底部が異常に厚い杯状の5の赤焼土器と皿状の「かわらけ」の2点がある。時期は明確にできないが、6の皿状のかわらけは、米沢城東二の丸跡の調査例を参考とするなら16世紀後半頃に多くみられる器形である。

5.まとめ

今回の調査は、道路拡幅といった限定した範囲の調査もあって、遺跡の性格を把握するような資料を得ることはできなかった。遺構の主体は溝跡が主となる。これらの溝の中には、水田の排水溝や磁北方向を意識した区画を示すような溝跡も検出されており、遺跡の中心部が東方向に存在していることを意味している。一方、中世と推測された方形や橢円形の土壙は、同じ方向に並列するなどから墓壙の可能性もある。中世の集落としては、本遺跡の南側500mの位置に一町四方の掘跡で区画された屋敷を中心として大規模な拠点集落を構成する上浅川B遺跡と荻の森遺跡が存在する。上浅川C遺跡はこうした大規模集落の周囲に点在している小規模集落跡と推測され、密接に係わっていたものと推測される。さらに、縄文前期初頭の遺物として条痕縄文が検出されたことは、米沢市の縄文早期から前期にかけての土器群が明瞭でないだけに貴重な資料となる。それとともに、梓川に面した段丘から検出されたことは、周辺に集落の存在を想定させ、河岸段丘の発達が以外と早い段階に形成されたことを物語っている。円形の土壙も、おそらくは縄文後期に属するもので、近辺に集落が構成している可能性がある。

最後に塚に関しては、戸塚山山麓や上郷地区には、竹井・浅川・川井地区等に中世～近世に属する土塙や墳墓、庶民信仰の対象となった三段塚・十三塚・庚申塚等が点在している。今回の上浅川塚もこうした庶民信仰の影響の中で成立したものと考えられる。中・近世の塚は近年の開発によって破壊の一途を辿っているのが現状であり、当時の精神文化や中世社会を考える上でも貴重な資料といえる。

報告書抄録

ふりがな	かみあさがわシーエセキ
書名	上浅川C遺跡
副書名	上浅川C遺跡発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第78集
編著者名	手塚 孝
編集機関	米沢市教育委員会
所在地	〒992-0012 山形県米沢市金池三丁目1-55号 TEL(0238)22-5111
発行年月日	平成14年3月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみあさがわシーエセキ 上浅川C遺跡	やまとたけんよねざわし 山形県米沢市 おおざざさがわ 大字浅川 1320他	6202	米沢市 遺跡番号 A-670	37度 57分 00秒	140度 8分 40秒	20000901 20000929	558	市道拡幅 造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上浅川C遺跡	集落跡	中世	柱穴・土壤・溝状 遺構・塚	縄文土器・石器・赤 燒土器	

写 真 図 版



第二図版 上浅川C遺跡の発掘（I）



▲遺構確認状況（南西より望む）



▲K Y10全景（西側より望む）



▲D Y 5～7 掘り下げ状況（南側より望む）



▲D Y 5～7 完振状況（南側より望む）

第四図版 上浅川C遺跡の発掘（四）



▲東側柱穴群の状況（西側より望む）



▲北側溝状遺構の完掘状況（南西より望む）



▲塚の断面状況（南東より望む）



▲塚の発掘前状況（南東より望む）

第六図版 上浅川C遺跡出土の遺物（二）



米沢市埋蔵文化財調査報告書 第78集
上浅川C遺跡発掘調査報告書

平成14年3月15日 印刷
平成14年3月28日 発行

発 行 米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目1-55
TEL (0238) 22-5111
(内線 7502)

印 刷 株式会社ケムシー
米沢市通町八丁目2-43
TEL (0238) 26-2212
FAX (0238) 23-1408